

建部 綾足（たけべ・あやたり）

1、プロフィール

俳人・国学者・読本作者。伊勢派金沢の希因門に入り江戸で涼袋号で宗匠。国学を学び古代の片歌を提唱。晩年『本朝水滸伝』他の読本を発表し、滝沢馬琴などの先行者となる。

<生没>

1719(享保4)年～1774(安永2)年3月 18日

<代表作>

片歌論『片歌二夜問答』

俳論『俳諧南北新話』

読本『本朝水滸伝』

<青森との関わり>

弘前に生まれたが嫂との事で郷を出てからは津軽に戻らなかった。彼の絵と作品の若干は県内に見ることができる。

2、作家解説

享保4年弘前藩家老喜多村政方の次男として江戸に生れる。同3年嫂(あによめ)そねと不倫の恋により嫂は離縁久域(ひさむら)は出奔。元文4年秋田比内より京に行き野坡に入門。秋比内に帰る。寛保元年駒込吉祥寺に住む。延享元年冬西国行脚に出、尾張を経、京に入る。延享2年金沢の暮柳舎希因に入門。俳号を葛鼠(かつそ)から都因とする。同3年師と不仲となり伊勢に行き梅路・鳥酔と逢う。翌年浅草金竜山下に吸露庵を結び号を涼袋とする。

寛永2年4月帰江麦水らと庵に会す。秋長崎に向けて京に入る。同3年長崎芝山亭画を熊斐らに学ぶ。宝暦元年大坂に帰着。同2年江戸に下り再び金竜山に庵を結ぶ。同4年中津藩奥平候の命で画修業のため長崎に行く。師は清人費漢源。同6年江戸に帰り第3次吸露庵を結ぶ。同7年目を病み奥平藩邸に療養。同

10年9月神田弁慶橋辺に新庵を結ぶ。同12年『寒葉斎画譜』刊行。同13年『片歌草のはり道』刊。9月賀茂真淵に入門。片歌を提起、片歌では綾足号を使う。明和元年『片歌あさふすま』刊。5月3月上毛を素輪と遊歴。明和5年三条堀川に住む。2月『西山物語』刊。3月妻子と共に大和伊勢に遊ぶ。秋『伊勢物語』を講じる。同7年伊勢能褒野に倭建命顯彰の片歌碑をたてる。花山院常雅から「片歌道主」の称号を賜る。花山院娘と松前候の婚儀に関与。8年江戸から京に帰り下京衣棚押小路下ル辺に住む。安永2年『本朝水滸伝』前編刊。5月江戸に入り奥平候邸で歌会。画を教え万葉集を講義。同3年2月桐生から熊谷の医師三浦宅に移り、療養。3月江戸石町に着く。3月18日没す。江戸向島弘福寺に葬る。法名「知足院即心是空居士」

3、資料紹介

○『紀行』上中下

図書

宝暦年間

青森県立図書館蔵自筆稿本。題簽に建凌岱自筆とあり各巻副題がある。旧蔵は群馬富岡坂本家。同家の先祖は綾足の門人麦竜舎雲郎である。全集の解題によると、諸種の草稿がありそれを綾足が宝暦8年ごろ整理・編集して清書したものと推定される、とある。